

【山形県大蔵村】

校務ＤＸ計画

文部科学省では、令和５年３月に「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務の情報化に関する専門会議」の提言をとりまとめ、次世代の校務ＤＸの目指す姿と課題を示し、令和５年９月に「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸ化チェックリスト」に基づく自己点検の実施を各教育委員会及び学校に依頼し、その結果を同年１２月に公表したところである。

村教育委員会及び各学校が次世代の校務ＤＸを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、次に掲げる事項を重点的に推進する。

校務支援システムの活用とＩＣＴ支援員の設置

現在、学校の校務業務の支援ツールとして、統合型校務支援システムを導入している。名簿情報、出席管理、成績処理、指導要録作成、健康管理等の幅広い業務で利用してもらうとともに、なお一層活用できるようにクラウド型校務システムの導入や、校務系・学習系ネットワークの統合に向けてセキュリティ対策を十分講じたうえで調査研究を進める。

また、教職員の授業でのＩＣＴ利活用のほか、職員のＩＣＴの知識の向上にむけＩＣＴ支援員を配置し、授業支援や校務支援を継続的に行っていく。

校務での１人１台端末の活動

各種会議における資料の印刷や配布に係る時間と用紙代等を削減するため、会議資料を紙媒体ではなくデータで配布し、ペーパーレス化を推進する。ペーパーレス化の妨げにならないように、教職員一人ひとりにＰＣもしくはタブレットの整備をするほか、校務全般におけるデータファイルへのアクセスの利便性を高めるためのクラウドサービスの導入について検討を重ねる。

FAX、押印の廃止

災害時やネットワークの不具合などの緊急性の高い場合を除き、FAXの原則廃止に向けて、学校や関係機関に対し、教育委員会からの見直しの依頼を行う。

また、教育委員会内で押印を求めている業務や文書の有無についての現状把握と見直しを行い、業務及び文書の性質を考慮したうえで、押印の必要性、適切な文章授受及び保管方法の検討、見直しを行っていく。